

町政を問う！



小玉博崇議員



村井利行議員

GPSを活用した「おもいやり除雪」の実施は

町長…おもいやり除雪は困難。置き雪対応、除雪費助成の拡充を検討。

問 高齢者等の除雪弱者を登録し、その自宅をGPS機能で通知することで置き雪を除雪するなど「おもいやり除雪」をする仕組みを本町でも導入してはいいかがか。

答 本町の降雪量、気象条件、作業時間等を考えると現行の体制では「おもいやり除雪」を実施することは困難。可能な限り玄関前に置き雪を少なくするよう受注者に引き続き指示するとともに、高齢者、障がい者への除雪費助成事業の対象要件拡大について検討していく。

ヤングケアラーに対する体制の構築は

町長…国のモデル事業の結果を踏まえ、支援体制の在り方を検討する。

問 大人に代わって家族の介護や日常の世話を日常的に行っている18歳未満の子もたち（ヤングケアラー）の実態が問題視されている。本町でもそのような事態が発生したとき、速やかに対応できる体制を構築すべきでは。

答 本町におけるヤングケアラーの実態は把握できていない状況のため、民生委員児童委員、学校や教育委員会と連携を図り、実態の把握に努めていく。支援体制の構築に向けては、国の多機関連携によるヤングケアラーへの支援に関するモデル事業の結果を踏まえ、本町に即した支援体制の在り方について検討していきたい。

入学金納付時期に間に合うよう、入学準備金貸付制度の見直しをすべきでは

教育長…入学金の交付時期を入学前に交付できるよう見直しをする。

問 経済的理由により奨学金等の貸し付けを行っているが、制度における入学金の貸付時期については入学後である。そのため、入学金納付時には貸し付けを受けることができない状況から、入学金納付時に間に合うよう貸付制度の見直しをしてはいいかがか。

答 入学金の一時的な準備に伴う経済的な負担の軽減を図るため、令和4年度の入学者に対応できるよう、入学金の交付時期を合格通知または合格発表があった際に、希望される方には入学前でも交付できるよう制度の見直しを図り、子どもが夢と希望を持って進学できる環境の充実に努める。

問 新型コロナウイルスの影響により経済的に厳しい家庭が増える中、国では給付型の奨学金や奨学金の返済を支援する自治体もある。本町における更なる支援策としての考えは。

答 給付型についてはこれまで貸付制度を利用している方との公平感を考慮するとともに、平成27年から貸付制度を充実させてきていることから、本町においては現行制度での支援を維持していく。

問 新型コロナウイルスを考慮し、貸付上限額を4万円から6万円にしたが、償還期間は変更していない状況。貸付金額が上がった分償還の負担が増えることから、償還期間を延ばすなど対応としては。

答 現制度において、償還が難しい時には償還を猶予することができることになっている。償還が難しい方への相談に対し親身に対応し、計画的に償還ができるよう対応していく。

6月定例会では4名の議員が登壇しました

ずばり



安中 経人 議員



進藤 久美子 議員

新庁舎を活用した町づくりの考えは

町長…行政と住民が向き合い、理想の郷土を求めて前進していく。

問

5月6日に待望の新庁舎が供用開始し、この庁舎には「100年先の町民にも使ってもらえる施設」という願いが込められている。町が歩んできた130年の歴史と経験を基に、今後、50年、100年先の未来に向け、新庁舎をどのように活用し、何を大切にしたい町づくりを進めていくのか。

答

新庁舎建設の基本理念の一つ「全ての人が利用しやすい庁舎」町民の交流拠点として、賑わいのある明るい庁舎」から人が集い、会話や交流が生まれ、やがて情報交換やまちづくりを語り合う場へと広がっていくことに期待している。50年先、100年先に向けたまちづくりについては、はるか彼方のことで、その時代を思い描くことは難しいが、時代は移ろうとも、更なる理想の郷土を求めて、常に前進する気持ちは変わらないと思う。100年先への道のりは、決して平坦なものばかりではないと思うが、町民の英知を集し、町が一丸となり歩みを進めていけば必ず道が開ける。100年後の新十津川がこの自治体よりも輝くために、私は、時のリーダーとしてしっかり役割を果たしていく。

後期高齢者へ歯科検診を実施しては

町長…現行の取り組みの中で歯の健康意識向上を図る。

問

高齢者の歯の喪失、歯周病、口腔機能の低下は、誤嚥性肺炎の発症や生活習慣病の悪化など健康状態に影響を及ぼす。後期高齢者の健康維持のため、歯科医による定期的な歯科検診を実施しては。

問

高齢者の歯科検診に要した費用は、委託料として北海道後期高齢者医療広域連合から支払われるので、自治体の負担は少ない。雨竜町では20歳以上の方を対象に実施、浦臼町でも75歳以下の方を対象に実施している。道民歯科健康実態調査によると、80歳で20本以上歯を有する人の割合は27・3%で全国の40・2%に比べると大きく下回っていることから、北海道においても、道民のみなさんに口腔ケアの大切さを周知している。そのような積極的な取り組みに対しての考えは

答

健康な生活を送るためには、子どものころから歯の健康を保つことが重要。今後、妊婦から乳幼児に対する歯科保健対策事業を継続し、成人および高齢者の口腔機能の維持向上につなげていく。高齢者に対しては、歯科受診を含めた歯の健康意識向上の周知を行って

答

歯の健康は重要であると認識している。80歳で20本の歯を有する率を上げるには、子どものころからの口腔ケアが重要。すまいるあつぷ事業等で、後期高齢者の方が歯科検診や受診につながるよう取り組んでいく。